

⑧ 実例集 Q&A

Q. 自己の都合で休むことは可能でしょうか？

A. 事前に予定が分っている際は、その日に予約は入れないなどで対応してください。身内に不幸があった時などのやむを得ない場合は、周辺の他宿泊施設を案内するなどお客様に迷惑がかからない対応を考えましょう。

Q. 農業を営みながら民泊を経営するのは大変では？

A. 例えば、宿泊部分はお母さん、食事部分は娘、体験提供はお父さん、などのような家族内での役割分担や、農作業繁忙期には近所の方に手伝ってもらうなど、家族や地域と連携していけば可能です。

民泊業を本業としてプロのようなサービスを提供していくと大変ですが、農家民泊の魅力である「農村の生活そのもの」と「家族ぐるみの心からのもてなし」を提供することであれば、自然体で受入ができると思います。

Q. どんな食事を出したら良いかわからないのですが・・・。

A. お客様が来るからと言って特別な料理を提供する必要はありません。漬物や手作り加工品など、その家庭ならではのものがあると喜ばれます。

Q. 自ら生産しているもの以外の食材を使っても構わないですか？

A. 年中、食卓に自分のものだけでまかなえるはずはありません。ただ、できるだけ地元で生産されたものを使用するなど、積極的に地産地消に取り組みましょう。

Q. お客様用の部屋がないのですが・・・。

A. 特別な部屋を用意する必要はありません。「昔、子供が使っていたけれど今は使っていない」というような部屋があれば、そういう1室を活用しましょう。（子供の学習机などがそのままでもOK。その生活感がかえって懐かしく感じます。）

Q. 体験はどのようなものを提供すれば良いのですか？

A. 特別なものを用意する必要はありませんし、また宿泊者全員に体験を提供する必要はありません。日々の農家の生活を体験させるという位で考えてください。

Q. お客様はいっぱい来るのでしょうか？

A. 何もしないですぐに来るというものではありません。様々な宣伝活動を経てそれから徐々に来るようになってきます。来たお客さまに満足していただいてリピーターにし、そこから口コミ等で広めていく努力が必要です。

